

中期環境目標とトランジション戦略のアップデートについて

- 国際民間航空機関（ICAO）総会での国際航空のCO2削減に関する目標の見直し等を踏まえ、2030年度の中期環境目標および脱炭素社会の実現に向けたトランジション戦略をアップデートしました。ANAグループ運航便における内際合計の実質CO2排出量を2019年度比で10%以上削減していきます。
- ANAグループは、SAFの活用を中核とする4つの戦略的アプローチ（運航上の改善・航空機等の技術革新、SAFの活用等航空燃料の低炭素化、排出権取引制度の活用、ネガティブエミッション技術¹の活用）を組み合わせ、経済合理性も考慮しながら、2050年カーボンニュートラルを実現してまいります。

ANAホールディングス株式会社は、第41回ICAO総会での国際航空のCO2削減に関する目標水準の見直しのほか、各国の環境規制動向、先進技術の発展等、経営を取り巻く環境が常に変化していることを踏まえ、2030年度の中期環境目標および2050年度までのカーボンニュートラル実現に向けたトランジション戦略をアップデートしました。

国際民間航空機関（ICAO）総会での国際航空のCO2削減に関する目標の見直し：

ICAOが、国際線におけるCO2排出量のグローバル基準値を定め、超過する場合は排出権の購入などを航空会社に義務付ける制度（Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation 通称 CORSIA）について、2022年10月の第41回ICAO総会で2024年から2035年の基準値が2019年比85%に見直しされた。

2021-2023年	2024-2035年
2019年の排出量	2019年の排出量の85%

国際航空のCO2削減に関する目標水準の見直しへの対応

ANAグループは、アジアを中心に成長が期待される国際線需要、訪日需要の増加に合わせて航空ネットワークを拡充していく一方で、第41回ICAO総会で見直された国際航空のCO2削減に関する目標水準も遵守していきます。

アップデート①：中期環境目標の見直し

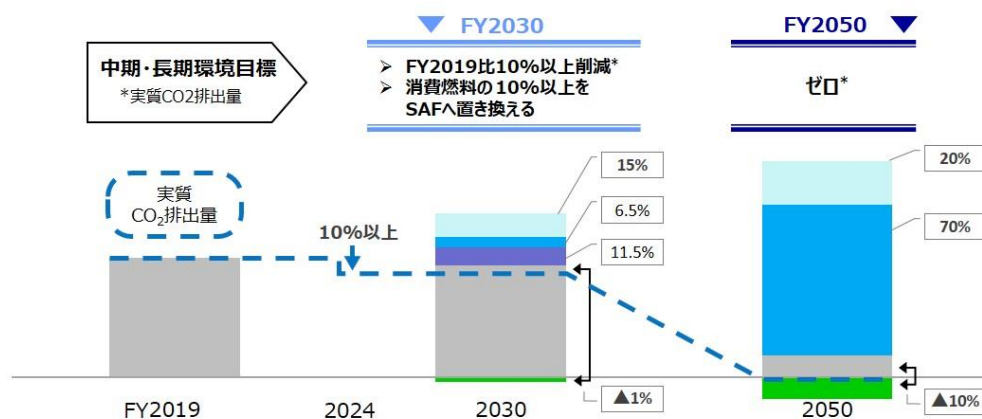
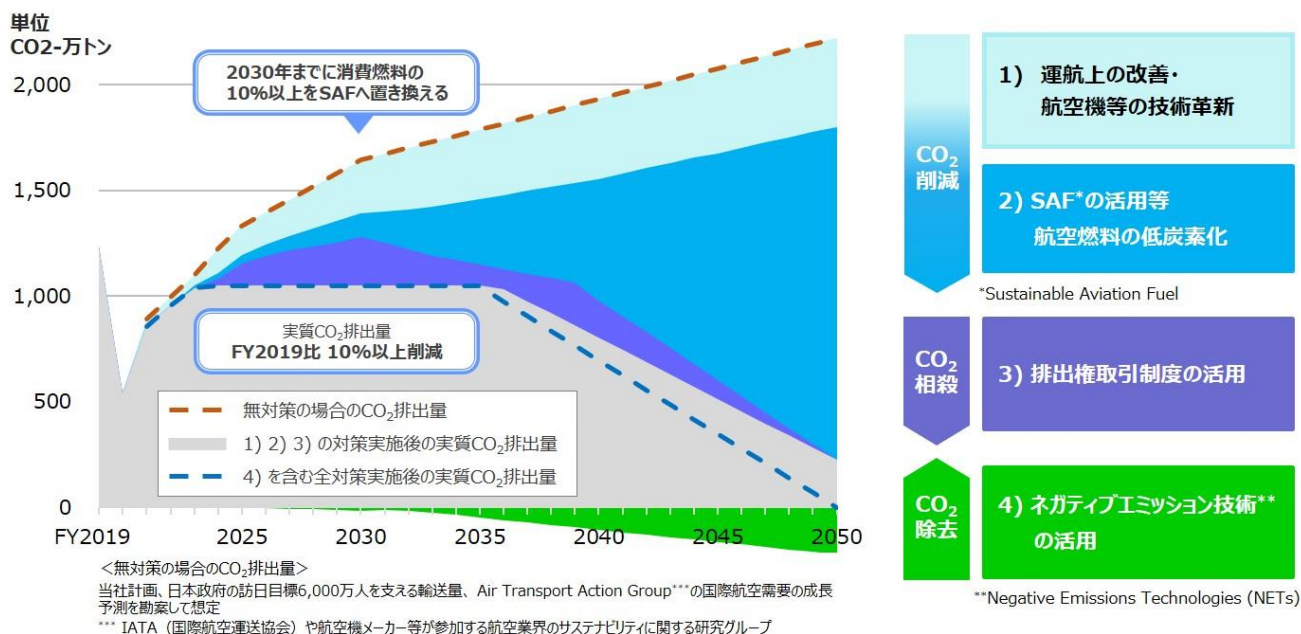
これまで、2030年度の『ANAグループ中期環境目標』として内際合計の実質CO2排出量を2019年度以下とする目標を掲げてまいりましたが、これを2019年度比10%以上削減する目標へ変更します。

また、ANAグループでは、これまで「2030年度までに消費燃料の10%以上をSAFへ置き換える」方針を掲げてまいりましたが、今般これを『ANAグループ中期環境目標』として設定します。これにより、現在、官民連携のもと取り組んでいる国産SAFが製造・安定供給される環境整備に向けて、課題解決を一層加速してまいります。

アップデート②：トランジション戦略の見直し

2024年度以降、内際合計の実質CO2排出量を2019年度比10%以上削減するシナリオに変更しました。経済合理性も考慮しながら4つの戦略的アプローチを組み合わせ取り組んでまいりますが、追加削減分については「排出権取引の活用」で対応することを検討しています。

【トランジション戦略】



4つの戦略的アプローチ

1) 運航上の改善・航空機等の技術革新

離陸時の早期加速上昇、着陸後の逆噴射抑制、地上走行時の片側エンジン停止、エンジン洗浄等、運航上の改善等によりCO₂排出量削減に取り組み、その実績を毎月ホームページで公開しています。

2030年度にはボーイング787型機100機以上の体制を目指し、省燃費機材への早期転換を推進していきます。また、航空機の機体表面に鮫の肌のような特殊加工を施すことで飛行中の空気摩擦抵抗を低減し、CO₂排出量削減に貢献する技術の実証および導入等にも取り組んでまいります。

2) SAFの活用等 航空燃料の低炭素化

ANAグループの脱炭素社会の実現に向けた戦略の中核となるのは、従来のジェット燃料よりもライフサイクルで約80%のCO₂削減効果が期待できるSAFの活用です。2030年度までに消費燃料の10%以上をSAFへ置き換え、2050年度には消費燃料のほぼ全量を低炭素化していく予定です。

3) 排出権取引制度の活用

短中期的な対応として排出権取引を活用していきます。ICAOで定められている基準に適合する信頼性の高い排出権によりCO₂排出量をオフセットし、適切に情報開示をしてまいります。

4) ネガティブエミッション技術の活用

大気中からCO₂を回収・吸収、貯留・固定化するネガティブエミッション技術の活用にも積極的に取り組んでいきます。具体的にはSAFの活用等だけで削減しきれないCO₂を、Direct Air Capture (DAC)等によって大気から直接回収し、永久的に『除去』することで、2050年カーボンニュートラル(実質ゼロ)を実現します。

ANA グループは、日本の航空会社として初めて SAF を定期便で使用する等、さまざまなステークホルダーと連携しながら航空事業の脱炭素化に先手を打って取り組んでまいりました。今後も世界における気候変動に関する動向を注視しながら、積極的に航空事業の持続可能性を追求し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献してまいります。

以上

1: ネガティブエミッション技術 (Negative Emissions Technologies = NETs) とは、Direct Air Capture (DAC) 等、大気中の CO2 を回収・吸収、貯留・固定化して永久的に除去する技術の総称。

報道機関からのお問い合わせ先

ANA ホールディングス株式会社 広報・コーポレートブランド推進部 03-6735-1111